

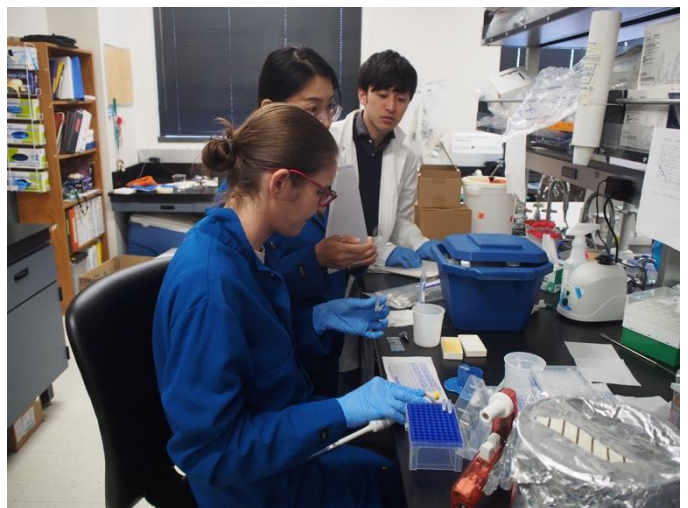
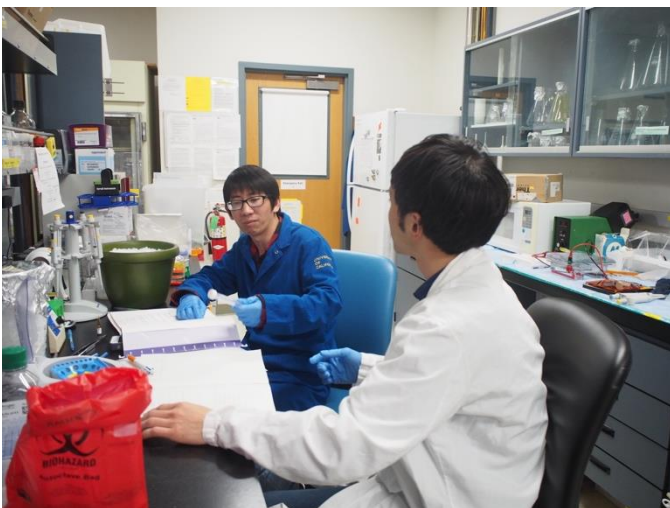
拠点形成研究交流報告：カリフォルニア大学デービス校での研究交流

平成 31 年 11 月 04 日から 11 月 27 日までの 24 日間、アメリカ・カリフォルニア大学デービス校 (UC DAVIS) の Huaijun Zhou 教授の研究室に短期留学し、自身の鳥類の免疫学に関する研究を紹介するとともに、ATAC-seq ならびに Chip-seq といったエピジェネティクス研究で使用されている実験手法を会得しました。実験室では Zhangyang 博士からその実験技術を直接教示いただいたほか、博士過程の大学院生である Karen 氏や Emily 氏からは鶏ヘルパー T 細胞をソーティングし、それらの遺伝子発現解析をするまでの過程をご教授いただきました。毎週月曜日に開催される研究進捗報告会にも参加させていただき、先生および大学院生と積極的に議論することができました。さらに、家禽研究に使用されている動物飼育施設 (e.g., 環境温度制御室、孵卵機など) を見学する機会も与えていただきました。



現地での生活は、朝 9 時から夜 6 時まで研究室で過ごし、昼食は室員達とともに獣医学部のキャンパス付近のカフェでとるなど、充実した時間を過ごすことができました。この度の留学は短期間ではありましたが、実験技術の会得のみならずアメリカの文化、食生活ならびに研究環境を肌で感じることができ、なおかつ比較的年齢の近い海外の研究者との繋がりができました。今回の留学にご協力くださった JSPS 研究拠点形成事業に、留学をサポート頂いた指導教員ならびに食と農免疫国際教育センターの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

(文：東北大学大学院農学研究科 動物栄養生化学分野・修士過程前期 2 年 平川良太)



上：ラボのグループ写真、左：Zhangyang 博士との実験風景、右：Karen 氏との実験風景